

使用すべき表現技法

目標

- 見えてる「虹の足」によって、見えてない「虹の足」について考える。

虹の足

擬人法

吉野 弘

： 比喩表現
： →直喻、隠喻、擬人法
： 比喩表現以外

虹の端の部分を足にたとえている

雨があがつて

雲間から

乾麺みたいに真直な直喻→「かたい」「のうし」という表現が目印

陽射しがたくさん地上に刺さり隠喻→陽射は直接地面上に刺さりながら、強いと感じたとえ

行手に榛名山が見えたころ

山路を登るバスの中で見たのだ、虹の足を。倒置法→山路と見るバスの中で虹の足を見た。だが自然な流れ

眼下にひろがる田園の上に

★ 虹がそつと足を下ろしたのを！

野面にすらりと足を置いて擬人法

虹のアーチが軽やかに

★ すくと空に立ったのを！

その虹の足の底に

小さな村といつかの家が

すっぽり抱かれて染められていたのだ。擬人法

それなのに

家から飛び出して虹の足にさわろうとする人影は見えない。

——おーい、君の家が虹の中にあるぞ才

乗客たちは頬を火照らせ

野面に立った虹の足に見とれた。

多分、あれはバスの中の僕らには見て

村の人々には見えないのだ。

そんなこともあるのだろう

他人には見て

自分には見えない幸福の中で

格別驚きもせず

幸福に生きていることが――。

★ ここには複数の表現技法が使われている。

① 擬人法→足を下ろして「空に立つ」と

虹が出来る様子を人にたとえている

② 省略法→足を下ろして「空に立つ」と

作者が「足を下ろして空に立つ」と

「空に立つ」という言葉が省略されている

「空に立つ」という言葉が省略されている

「空に立つ」という言葉が省略されている

③ くり返し→①、②の表現技法の使い方や文の書き方など似たような表現を繰り返している

見つけたときの感想を述べてある

★★重複&難い

虹 にじ

虹色

乾麺 かわらめん
乾燥 かわらめい

榛名山

群馬県中部にある山。

頬 ほお

頬紅



吉野 弘

【一九二六—一〇一四】

山形県に生まれた。

詩人。

詩集に『消息』、『幻滅』、『北入り』。

『會』、『紅葉』などがある。

『出典』、『新選現代詩文庫』に

収録された。

『新選吉野弘詩集』に

よつた。

みちしるべ

① この詩に用いられているたとえ（比喩）の表現を抜き出し、何を何にたとえたものなのか、話し合おう。

② 作者が「虹の足」を見て発見したことについて考え、感想を交流しよう。